

シンクルードとバイブラインに、更に何十億ドルを使う——それなら、カナダ人が誇りとし得る鉄道のために、数十億ドル投資してもよいではなからうか。日本人が、技術、経験、それに、「一人、二人に貨物」という賞賛すべき哲学を生かして、援助してくれるかも、あるいは投資さえしてくれるかもしれない。

日本人の社会的姿勢

西洋社会が、最も多くのものを日本から学べる分野は、市民として、従業員として、あるいは家族の一員として、個人がとるべき社会的姿勢である。最近出版された、日本に関する秀れた著作、ウイリアム・H・フォービス著、「今日の日本——人、場所、力」は、私の言いたいことを、明快に要約してくれている。フ

オービス氏は日本人を「一億一千万人のオーバーアチーバー達(Overachiever)——勤勉な努力の結果、周囲の期待以上のことを成し遂げた人の意」と呼び、その特質を次のように列記している。

- 国家の統一性と共通の目標に対する強い意識。
- 各自の社会的位置に対する明確な認識。
- 家族に対する変らぬ忠誠。
- 国内および西洋諸国から力を引出す実用主義的能力。
- 単純ではあるが、並みはずれた仕事への献身。

これらを、フォービス氏はコンセンサス、階級制度、家、折衷主義、エネルギー、という五つの単語に要約している。フォービス氏は、日本が過去、現在にわ

経済関係の諸問題

ブリテイッシュ・コロンビア大学教授

フランク・ランドン



カナダと日本は、本紙一月号に詳述されているように、両国間の大規模かつ増大する貿易を通じて、互いに深く依存するようになった。が、最近の数値によれば、一九七五年になって、貿易量の増加が停止したばかりか、この二十年余りの

うちで初めて下降線をたどったことがわかった。最近の世界的な不景気とインフレーションがその原因であることは間違いないが、天然資源からの見返りおよび収益の増加をはかり、また外国投資をコントロールしようとするカナダの動きは、

たり、信じられない程複雑な問題に立ち向うことを余儀なくされているが、なぜ成功者たり得ているのか、その真相を深い部分でとらえていると思う。資源に乏しく、多過ぎる人をかかえ、隣国から恐れられ、あるいは恨まれ、原料の未来に対して不安を抱きながらも、勇気と機智をもって問題に立向っている日本人から、我々カナダ人は、必ず多くのものを学びとることができ、そしてそれが永遠の利益につながるものと思う。日本人として、また、カナダ人として、我々は、互いに多くのものを与えあうことができ。そして、幸いなことに、両国間の友好的雰囲気と相互協力関係はそれを可能にするであろう。(ニュー・ブランズウィック州セント・ジョンにおける講演から)

貿易パターンや対日関係にも重大な変化をもたらすことになるかもしれない。

国内石油供給量の減少で石油輸出量は急激に落ち込んだものの、カナダが今後とも天然資源の輸出を続けたいと考えていることは変わらない。おそらく日本の諸産業も、この先ずっと天然資源を必要とするところであろう。ところが、カナダでは、長いこと、国内の雇用促進や収入増加をはかるため、高度な技術装置のよくな完成品はもちろんのこと、加工製品の輸出を増やす必要に迫られてきた。しかし、銅を例にとってみると、ザンビアとかザイールといった開発途上国でさえも、地金にして輸出するというのに、一九

七四年の日本における全銅需要の約三四%を供給したブリテイッシュ・コロンビア州には、ひとつの製錬所すらない。先の新民主党政府は、銅製錬所への日本の参画を強く求めたが、失敗に終わった。ブリテイッシュ・コロンビア州に銅製錬の合併会社を作るというコミンコ、三菱、丸紅三社のこの計画は、新民主党が一九七四年に制定した高い採掘権のせいで流れてしまった。その後選出された社会信用党は、この鉱物採掘権条例を廃止したため、同州の主要鉱山会社は最近、業績の改善を報告している。これまで、連邦政府と州政府は、競って天然資源からの収益増加を試み、税収および採掘権収入は急増した。しかし、今では、極端な政策はとらず、収益の維持をしつつ投資を奨励する、より穏健な課税政策に移行している。これは、著しく価格の変動をこらえたり採掘業にとって、特に重要なことである。過去二年間どん底にあった銅の価格は、今年になって徐々に上ってきており、ようやく好転のきざしがみえてきた。

加工品輸出を希望

第二次産品の輸出を増やしたい——これが対日貿易における、カナダの長年の願いである。ドナルド・ジェイミソン前通産大臣が五月、バンクーバーでの太平洋経済会議で述べたように、かつて、ジャン・ルック・ペバン大臣が、日本との貿易では加工品の輸出が少なすぎると批判してから五年が経過したというのに、ほとんど当時と変りがない。つまり、貿易額は五年前の倍になっているのに、貿易のパターンは変わらなかった訳である。